■山本帯刀(義路)　　**代々，長岡藩の上席家老ながら，河井継之助の改革に率先して応じ，軍事総督として奮戦，会津に散った。**
やまもとたてわき(よしみち)
阿部正弘首座1845＝　　安田(多膳)家の嫡男に生まれる。父は山本家9代義方の末弟鋼三郎で，安田氏320石に養子入りして安田渡となった。母は，遠祖が御典医であった越後長岡藩上級家臣(番頭級)の安田弓である。幼名は堅三郎。

中肉中背で，他人といたずらに争わず，謹直な性格で，四書五経を二行まとめ読みして**_神童と呼ばれ，**

_父とは兄弟だった山本家11代当主山本勘右衛門義和が終生独身だったため，絶家を防ぐ藩命により，

ペリー来航・1853＝ 8歳：**_代々上席家老の山本家の養子となり，名を，佐伝治と改める。**
開国開港・・1854**＝ 9歳：**山本家6代の山本老迂斎が開いた塾をルーツとする藩校{崇徳館}に入り，
_山本家は，武田信玄を支えた山本勘助の弟を祖とするといわれ，越後長岡藩の，稲垣家に次ぐ上級家老で，ともに，徳川家康より，牧野家を支えるべく遣わされた，将軍に直接拝謁できる御目見得以上の資格を持ち，帯刀・帯刀左衛門・勘右衛門等を通称として用いていた。
伊東東岸・東嶽父子から，実証を重んじ，仁愛を説く古義学を学んで，影響を受けたのをはじめ，長島佐太郎，横田大助らに就いて，槍刀弓馬はじめ，藩の武術すべてに精通，佐野與惣左衛門から軍学を習得するなど，**_文武両道を究めて，藩内で注目される存在になって行く。**
桜田門外変・1860＝15歳：元服すると，藩命で，
遣欧使節・・1861＝16歳：部屋住み身分のまま側用人見習いとなり，**_養父と別に，新知500石を賜り，帯刀と名乗るようになる。**
8月18日政変 1863**＝18歳：**この年，**_長岡藩の分家の一つ小諸藩で，藩主擁立を契機に派閥抗争が始まり，**
禁門の変・・1864＝19歳：***早くも，家老見習まで昇進，牧野家が京都所司代に就任した際には，扈従して上洛。"天狗党の乱"鎮圧問題で騒動に発展，一派が，対立派閥の家老更迭を藩主牧野忠恭に嘆願して来た際，藩主の命で，実態を探り，穏便に済ませるべく，小諸藩と交渉。将軍のお供で両藩が多忙になった際に，更迭が実現しまうと，今度は，対立側から更迭の嘆願，藩主は，藩に戻ってきた河井継之助を奉行に解決，自らが藩主に信頼されていることを確信し，河井を尊敬するようになる。**
大政奉還・・1867＝22歳：***養父が死去。家督と代々の家禄1300石を相続するが，藩主から絶大な信頼を得た河井継之助が家老に抜擢され，門閥打破を狙った藩政改革を断行するなか，門閥勢力の代表格ながら，率先して協力し，自家の知行高を400石に減石することを甘受。**
明治維新・・1868＝23歳：***戊辰戦争が起き，"小千谷会談"で，河井が中立の立場を主張するも決裂，北越戦争に突入すると，長岡藩の大隊長として出陣する間，長岡城は落城。河井を中心に立てた奇襲奪還作戦の口上書を作成，士気を向上した兵を率いて先陣を切り，奪還に成功するも束の間，河井自身が重傷を負って指揮不能になり，再び，落城。藩主親子のいる会津に敗走して，会津藩兵と合流，奥羽越列藩同盟の盟主たる会津若松城主松平家を守るべく，官軍相手に奮戦するも，孤立し包囲され，多数の死傷者を出し，14名とともに，宇都宮藩兵に捕縛される。軍監中村半次郎(桐野利秋)の指示のもと，次々と断首されるなか，隊長として，最後まで残されるという苦痛の末，長岡藩の降伏を勧められるも拒否，自ら処刑を求め，三河国牛久保城以来の牧野家譜代の長岡藩士渡辺豹吉と共に阿賀野川の河原で斬首され，没した。本来は，先に斬首となる豹吉は，主の首級を懇ろに埋葬したいと懇願，その通りになって，殉じた。**
戦犯となった山本家は家系断絶，1883年，河井家と共に家名再興を許可され，玉路が女戸主となって継いだが結婚せず，跡継ぎがいなかったため，名門の山本家の断絶を恐れた渡辺廉吉らの計らいにより，旧藩主牧野家の懇請で，1916年に，長岡士族・高野家から養子に入ったのが後の連合艦隊司令長官山本五十六で，山本家の名を汚さぬように努めて，軍神になった。

星亮一(編)「"朝敵"と呼ばれようとも～維新に抗した殉国の志士」，Wikipedia，